

Title	フランス学会編 フランスの社会科学
Sub Title	
Author	永田, 清
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1930
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.24, No.4 (1930. 4) ,p.683(201)- 688(206)
JaLC DOI	10.14991/001.19300401-0201
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19300401-0201

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

吾人は以上に於て採炭方法の發達と其の各部門に於ける兒童雇傭とに就て述べた。次には炭礦業の特徴たる地理的孤立によつて生ずる勞資關係、雇傭狀態、是等によつて生ずる兒童勞働者の取扱、例へば實物賃銀制度、住居、教育等の狀態が兒童に如何なる影響を及ぼしたか等を見るべきであるが、此等に就ては近き將來に叙述の機會を得たいと思ふ。

(1) Ashton and Sykes, op. cit. p. 173.

(2) 三田評論昭和四年五月號、野村教授「近世英國經濟史」二一頁。當時の資本家の利己的なることに就ては炭坑に於ける兒童保護に對する彼等の反對理由に明かであるが、之に就ては後日述ぶる機會があると思ふ。

(3) 前掲高島譯、第一卷五〇六頁。

(4) W. Cunningham, The Growth of English Industry and Commerce in Modern Times. Pt. II. Laissez Faire. p. 805.

(5) Brady, op. cit. p. 271. note.

(一九三〇・三・六稿)

フランス學會編「フランスの社會科學」

永田清

フランス學會は、さきに、フランス科學に於ける研究法の特質を紹介するために *De la méthode dans les sciences, première et deuxième séries* の邦譯を劃行し、其の中間科學に關する部分、即ち第一輯より心理學、社會學、道德學、歴史學を、第二輯より考古學、文學史、言語學、統計學を選んで「科學研究法」を編んだ。該書の原著者は悉く現代フランス學界に於ける最高權威であり、其の主要問題に對する説明方法も極めて簡明達意である。該書が啓蒙的意義に於いて多分の重要性をもつことは蓋し異論なきところであらう。而して我がフランス學會は該譯書を同學會叢書の一つとして出版したるのみならず、更に、あらゆる意味に於いてそれと補足關係に在る「フランスの社會科學、現代に於ける諸傾向」なる著書を公にした。本稿はこの書の紹介である。

該書は全篇を分つて九章となし、社會に關する種々なる科學に就いてフランス學界に通曉せる各専門家の獨立論文を綜合したものである。右九章の分類を順次に記せば、第一、社會學(執筆者、田邊、高瀬兩氏)、第二、經濟學(芹澤、松浦兩氏)、第三、政治學(松平氏)、第四、法律學(宮澤、横田、風早三氏)、第五、心理學(波多野氏)、第六、倫理學(牧野氏)、第七、宗教學(古野氏)、第八、歴史學(間崎氏)及び第九、東洋學(松本氏)である。社會科學を以上諸科學の單なる綜合概念とする

ことに就いては無論異論があらう。社會科學が、人間社會換言すれば人間の事象、集團生活をなす人間の活動をその研究對象とする結果、極めて包括的意義を持つに至ることは Valdoir (Les Methodes en Science Sociales) の言を俟つまでもないが、社會科學なる名辭の意義に就いて更に統一的法則並に嚮導觀念が要求せられるかも知れぬ。併し乍ら、其は恐らく望蜀の嫌があらう。蓋し、本書の目的は唯だ、フランスの諸科學を包括的に研究することによつて我が學界にフランス科學の優越性を適當に認めしむるに在るが故である。

第一章社會學は、一、フランス現代社會學と、二、ブーグレルの社會學とに分れてゐる。前者はデュルケム學者田邊壽利氏が擔當せられ、而して後者は曾てフランス社會學に就いて貴重なる諸論文を發表せられた高瀬教授の分擔せるところである。「フランス現代社會學」は短い紙數の中に、コントの社會學を論じ、又、生物學派、人類學派、地理學派、心理學派、デュルケムの社會學、これに對する反動、デュルケム學派の發展に迄及んで居る結果、勢ひ簡略にながれて居るが、其の中紙數を費すこと多き點からしても、又其の説明の精彩に富める點からしても、著者の最も力を用いたのはデュルケムの社會學に關する部分である。デュルケムに就いて特に多くの紙數を使ふことは、形式上から謂へば不統一であるけれども、論理上から謂へば然らざるを得ないのである。蓋し、フランス社會學界を風靡した點から謂つて、又、他科學に及ぼした影響の大なる點から謂つてデュルケムに比肩すべきものがないからである。事實上、彼の研究の紹介が本書に於いて社會學に與へられたる頁數全部を充て、も不充分であらうことは著者の言を俟つ迄もない。斯かる場合、先づデュルケム社會學の對象、方法、體系及びその著述に就いての概觀を與へ、續いてその主要著作の簡單な解説を行ふ田邊氏の叙述方法は限定内の頁數を生かす意味から謂つて極めて有効である。然かも、其の

説明態様が、綿密なる涉獵を経たる後の簡潔であるから、讀者を裨益するところが極めて多い。高瀬教授の「ブーグレルの社會學」に就いても同様であつて、彼れのサン・シモン及びブールドン論、ソツダリズム、サンディカリズム等に關する研究を割愛せられた結果、却つて論理整然とブーグレル社會學の概略を傳へて余すところがないのである。以上二つの論文は簡略乍らフランス社會學界の鳥瞰圖を與へてゐると謂つてよい。けれども、第二章「經濟學」に關しては、特質あるフランス經濟學を包括的に説明して居ない憾みがある。

この經濟學の章も、前掲社會學の場合と等しく、經濟學に於ける社會學的方法及び、ソツダリテの經濟學說の二部門に分れ、前者は芹澤教授、後者は松浦教授が各、執筆せられて居る。

「經濟學に於ける社會學的方法」は、デュルケム學派に屬する經濟學者 Simiand の La méthode positive en science economique を基礎とし、社會學派に於ける經濟學を丹念に紹介したものである。ブーグレルは曾て斯う謂つたことがある。——「フランスに於いては、純理經濟學は最も振はざる分派である。フランス人は極端なる抽象的經濟學說には余り興味を持たぬ。初めは斯かる方向に進んで居ても、直ちに社會問題や經濟政策に轉換するのが常である」(註)と。この言の當否は姑らく措くとして、兎に角方法的な研究が一時不振であつた間に、シミアンが、デュルケム社會學を基礎とする實證論的研究方法を唱導して居つたことは看過することが出来ぬ。事實上、シミアンの前掲書がフランス經濟學說研究者の等閑に付すべからざる著作たることは異論がないであらう。評者はこの意味に於いて「經濟學に於ける社會學的方法」一篇の價值を認める。

(本誌二十二卷四號)序言

(註) 拙稿「現代の純理經濟學」(本誌二十二卷四號)序言參看。

Brantano Fasgabe, Bd. II Gide, Die sozialökonomische Literatur in Frankreich seit dem Beginn dieses Jahrhunderts, S. 45.

シミアンによつて代表せらるゝ社會學派が現代フランス經濟學說中に於ける一學派である如く、ソリダリテ學說も亦その一潮流である。松浦教授の「ソリダリテの經濟學說」は該學說と他學說との關係・レオン・ブルジョアによるソリダリテの内容及び協同組合主義の理論的根據としての其の意義を簡明に説いたものである。教授は、限定せられたる紙數の中に、單にソリダリテの内容を説明するのみならず、進んでデードに於ける協同組合主義への發展、フウリエとの關係迄論じて居られるから、唯だ學說紹介のみを目的とする論文に對してはこれ以上望み得ないであらう。若し讀者にしてこの問題に關しより精細なる文献を求めらるゝならば、評者に直ちに増井教授の「社會連帶主義」(慶應義塾大學經濟思潮講集所載)を擧げるであらう。米田博士、丸山氏の著書論文も亦、ソリダリテの意義に關する説明に於いて充分參考に價すると思ふ。

「フランスの社會科學」中に於いて、經濟學の紹介論文は以上の二つである。讀者は果してそれ等二論文のみによつてフランスの經濟學の特質及びその諸潮流を全體的に把握し得るであらうか評者は否と答へる。何故なれば、以上の二論文は僅かに現代フランス經濟學說中に於ける二潮流を代表するにすぎぬからである。吾々は例へば

Raymund de Waha, Die Nationalökonomie in Frankreich.

Ch. Brouilhet, Le Conflit des Doctrines.

Ch. Gide, Die sozialökonomische Literatur in Frankreich. (a. a. O.)

Economic Literature in France at the beginning of the twentieth century. (The Economic

Journal, vol. 17 1907. June)

G. Pirou, Les Doctrines économiques en France depuis 1870.

L'Etat actuel de la Science économique en France. (Doctrines sociales et Science économique 及び Die wirtschaftstheorie der Gegenwart, Bd. 1 所收)

La Méthode et l'Ordonnement de la Science économique. (Revue d'Economie Politique, Tome 42. 1928)

等によつて現代フランス經濟學說及び諸學派の特質を充分に窺知し得るから、本書中の「經濟學」がフランスの經濟學說を紹介する意味であるならば、これ等參考文獻によつて全體の學派並にその特質を説明する方法を採るべきではなかつたらうか。この方法は叙述の仕方によつては必ずしも「幾つかのフランス讀みの名を教へること」にはならないであらう。若しも、全體の學派に互つて説明することは、與へられた紙數では不充分であると謂ふならば、其は結局全部の紙數を一學派のみの説明にあてても猶ほ不充分と謂へやう。本書の如く紹介を目的とする小論文の編纂書に對して學術的研究を要求することは、素々無理なことである。然かもフランス經濟學說を全體的に説明もせず、又、特殊の問題に對する學理的貢獻を齎さざるが如き中間的なる論文を蒐めることは、本書の經濟學の部分にあてたる頁數を充分に生かす方法ではないのである。

評者は前掲二論文の價値を充分に認める。併し乍ら、それだけではフランス經濟學を充分に理解したとは謂へぬと謂ふのである。其の他の學派、例へば社會主義學派、自由主義學派(修正派を含む)社會政策學派、數理學派等の説明に略、等しい紙數を費す必要がある。若しその爲めに生ずる頁數の増大を絶對に許さぬならば、與へられた紙數内で、フランスに於ける各學派を概観することが最

も賢明な方法であらうし、且つ其は事實上可能なことである。評者も亦、他日斯る諸學派の個々に關する論述を發表し度いと思つて居る。

一讀者として斯く概觀的批評は之を擧げるものゝ、フランス經濟學に於ける社會學派、ソリダリスト學派に就いての兩教授の記述が簡明達意なる一點は推重措くべからざる所である。この「經濟學」の部門が、前掲「社會學」に關する二論文と等しく、一讀を怠るべからざる論文なることは疑ないのである。評者は、自己の専攻上、本書に於ける社會學、經濟學以外の章に互つて評言を加へることが出來ぬ。併し乍ら、上掲二章のみから謂つても、本書の目的は略々達せられてゐると謂つてよいのである。(刀江書院發行、定價三圓八拾錢)。

前號 第三十四卷 目次

●長距離遞減賃率の根據に就いて 増井 幸雄

●運河と産業革命 野村兼太郎

●一六九七年の金融恐慌と Bank Restriction Act の制定 町田義一郎

●租税犠牲説と功利主義哲學 永田 清

——租税理論研究の二節——

●一冊定價金五拾錢
●半年分金貳圓九拾錢
●一年分金五圓四拾錢

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛

●營業に關する用件は發賣元宛

●原稿締切期日は發行の前月十日限

昭和五年三月廿一日印刷納本 每月一回一日發行
昭和五年四月一日發行

三田會社編輯 江田 範 保
發行所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷者 金子 鐵 五 郎
印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
金子 活版所

發賣元 丸善株式會社三田出張所
東京市芝區三田三丁目二番地慶應義塾内

●尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す
電話高輪一九二六番

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會